

医家隨想



ウナギを追う話

出来尚史

「子供の頃、『大海原に大海蛇（巨大ウナギ？）を追つ』とこつ夢を抱いていた。夢の出でじゆでは少年向きの科学読物である。いわく

ウナギの稚魚レプトセファルスは体長五センチ。成魚は一メートル。約二十倍の大きさに成長する。一九三〇年南大西洋で一メートル八十四センチのレプトセファルスが捕獲された。この個体がそのまま成魚になったとすれば優に三十メートルを超えたであろう。

古来船乗りたちに恐れられてきた大海は、子供の頃、『大海原に大海蛇（巨大ウナギ？）を追つ』とこつ夢を抱いていた。夢の出でじゆでは少年向きの科学読物である。いわく

「いたゞ、あそこだ！」急旋回をしてわが探査船が後を追つ。今日しかも、その正体を見廻けるのだ。ああ、血沸き肉踊るこの勇壮なイメージに、胸ときめかせぬ男兒がいたであろうか。

それから半世紀余りがたつ。科学者たちが粘り強い調査を続け、謎の多いウナギの生活史にも光が当たるようになつた。

一ホンウナギの産卵場所はマリアナ諸島西のスルガ海山付近らしい。孵化した幼生は細長い葉形のレプトセファルスとなり、海流に乗つて日本近海に移動。ついでシラスウナギに変態して河口に到達する。

シラスウナギはウナギの形ではあるが、私が生まれ育つたのは四国の中高知である。昭和二十年代にはまだ市街地の細流にもウナギが棲んでいた。年暮の連中は竹ひごの先に針とミニスを付けて石垣の隙間に挑戦。さしたる技倆を持たない私たち年少者は小型の金網で水生植物の根

色はなく透明に近い。就学前の児童といったところか。汽水域で体を慣らしクロコとなればしめたもの。勇躍マイホーム開拓へと出発だ。急流に怯まず、渴水にめげず、仔ウナギは川を遡上し成魚となる。ここまで五年から十年と謂われている。

成熟したウナギの次の旅は産卵のための川降りである。河口では往路と同じよう汽水域で順心期間をおくる。その後は海に入り、一千五百キロ離れた生まれ故郷を目指すのだ。来る時は海流に乗ったが、今度は逆方向。帰りのルートは未だわかつていよい。

さて、と考へる。この生活史のどにわが巨大ウナギが収まるのか。川では大きくなるのは難しい。まずは、降海後しかあるまい。産卵に関しては、あるいは産卵の後、ひたすら長生きして大型化するというシナリオだ。しかし、川を出る時にはたかだか一メートル。巨大ウナギは推定二十から三十メートル。その懸絶

はなはだしく、可能性あつと胸を張つては言じ辛い。

ひるがえつて、件の大型レプトセファルスのこと。彼あるいは彼女はいつたい何者であったのか。

実はこれ、その後の研究によつてウナギとは別種の魚であることが判明した。

この種の魚はレプトセファルスの大きさそのままであつて、成魚になるそつである。つまり一メートルを大きく超えることはないとこつことだ。

大海蛇イコール巨大ウナギ説はひつとも旗色が悪い。一九七〇年以降信頼するに足る大海蛇の目撲報告は絶え、私の夢もいつの間にかしりすばみとなつていた。

夢が漬えたからといつて本家本元への思いが薄れたわけではない。きらめく陽光、清冽な流れの中に身を置き、元気な仔ウナギや黄色い腹をした堂々たる親ウナギに会いたいと思つ。

しかし川はもう昔の川ではない。高知

市内ではウナギの姿を見ることが難しくなつた。清流で知られる淀川や四万十川でもその数が激減したと聞いている。

原因の一つは養殖目的のシラスウナギの乱獲である。海から上がつてきたシラスウナギを河口で一網打尽にする。難を逃れるものは一割にも満たないらしい。これでは親ウナギが減少するはずだ。

いま一つの原因と云はれてるのは河川環境の劣化である。ダムや護岸工事、また水、餌の変化などウナギの成育には不利な材料が揃つてしまつた。卵を孵し、幼魚を育む海の環境も変わりつつある。

そのまま行けば、日本中の川や湖沼からウナギがいなくなつたがくるかもれない。大海蛇は幻でもよいが、ウナギが幻となるのは寂しい氣がする。川底に潜むウナギも人間の所業を苦々しく思つてゐるに違ひない。

『素人體』といつて落語がある。體屋の親方が、手の中から逃げそつてゐる體を

追つて店の外を右往左往する。オチは「うなる。

「おーい親方、どー行くんだい」

「えーつ、どー行くって? 前回

て鰻に聞いてください」

現代版『素人鰻』はいわだ

「おーい鰻、どー行くんだい」

「どー行くって、後に回って 人間

に聞いてくれ」

「わははーはくと

星野達夫

色はぐくべと散りぬるを

朝 起きがけに何の脈絡もなく 子供

の頃遊んだ犬棒カルタを思い出した。犬も歩けば棒に当たる」に始まるいろはが書かれていてしかも生活に密着している。基本になる歌がまた大意味深く 唱え

るたびに新たな発見がある「色々べど 散りぬるをわが世誰そ常ならむ 有為の 奥山今日越えて浅き夢見じ醉ひもせず」

この句の前半はこの世の移りこやすが、後半は世俗を超越した悟りの境地を詠んだものだ。だが、還暦を越えてなお浮き世の誘惑にゆれ続け悟りの境地にはほど遠い我が身にはもつぱり前半の諸行無常がひしひことばかりしている。しかもこの歌の中に48文字がすべて入っているといつ奇跡のよつな事実にはつくづく感服する。これを詠んだ人は言葉つかいの天才に違いない。あとで調べたら作者は空海とするものをはじめ諸説あるがよみびと不詳とのことであった。

『記憶力だめし

このカルタにある48の句をこくつ思へ出せたるつかといふと思った。よし、じのくらこ覚えてこるが挑戦してみよ。あこづえお順の「あからこつてみよ。」あ、あはなんだつけ。思いだせない。

「は「犬も歩け」だ」「う? う、う、う、とうなるが出てこない」「え? え? お? は? やつぱりでない。それならと「カ行」、「サ行」と思い出せたとしたが、焦るせいにまつたく出てこない。記憶力の異常な減退だ。ウイルスで無残にかき消された「ンピ」コーナー画面が眼に浮かぶ。

「と、唐突に、「瑠璃も針も照らせばかかる、が頭に浮かんだ。たちまち「安物貰ての錢失し」が続く。アイツはお順でないものがどうして頭に浮かんだのだろうか。そうだ、これはカルタだから、いふは順でなければと気がついた。」いは「犬も歩けば棒に当たる」、「る」は「論より証拠」、「は」は「花より園子」、何でことない、しかし「に」「に」「に」は出ない。「ほ? うーん、ほも出ない。」へは簡単。「へをひつて尻むぼめる。子供の頃ひつて笑ひながらすぐ覚えたもの。こつこつ句は思ひ出しやすい。しかじこは順にしてもなかなか思い出せない

「じる」と呟ついた。

記憶力抜群

身支度を整え玄関で靴を履きながら先週来院した狭心症の患者に専門病院を紹介する約束をしていたことをふと思い出した。どの病院がいいか迷つてゐる「帶に短したすきに長し」が出た。駅に向かつ道すがら積もり始めた落葉を踏んで「ちつとも積もれば山となる」この辺は夏の盛りに蟻が多かつたことを思つ出したといひや「泣きつ面に蟻」、今日も忙

「帶に短したすきに長し」が出た。駅に

仕損じる。田に入つてゐる光景が連想の男が断られるのを見て「せじては」と

引き金を引き、忘れていたものを記憶の底から呼び戻すのだろうか。なんだか結構覚えてはいるのだが、「こんな遠い昔に覚えた」とかすりすり出るとは自分自身の記憶力はひょっとして抜群なのではないと瞬思ひ。

わあこの余勢を駆つて思つたとたん

「得て」帆を上げ」が出た。さうになぜ

か、亭主の好きな赤い馬鹿子、つぎに「律義者の子沢山」が出る。考えてみるとこれはすこぶるおせつかいな句だじふと思つ。カルタ取りをしながら祖父に「これどうじつ意味?」と聞いたことを思つ出した。今回、再入会いたします。どうかよろしく、お願い申し上げます。

(内科・呼吸器)

浅田高明

以前、本クラブの文部に所属し

時々、この機関誌にも主として主宰治闘連の駄文を載せて貰つてあります。

今回、再入会いたします。どうかよろしく、お願い申し上げます。

しい外来が待つてゐるぞと思つた途端

「貧乏暇なし」が頭に浮かんだ。地下鉄

表参道駅の狭い階段から地上に出しなに

頭上に広がる青空が突然田に飛び込み

「よしの體から天井のぞく」通学途中の

女子大生にエスティのドア配りをする若い

男が断られるのを見て「せじては」と

仕損じる。田に入つてゐる光景が連想の男が断られるのを見て「せじては」と

引き金を引き、忘れていたものを記憶の底から呼び戻すのだろうか。なんだか結構覚えてはいるのだが、「こんな遠い昔に覚えた」とかすりすり出るとは自分自身の記憶力はひょっとして抜群なのではないと瞬思ひ。

わあこの余勢を駆つて思つたとたん

「得て」帆を上げ」が出た。さうになぜ

か、亭主の好きな赤い馬鹿子、つぎに「律

義者の子沢山」が出る。考えてみるとこ

れはすこぶるおせつかいな句だじふと思つ。

カルタ取りをしながら祖父に「これ

どうじつ意味?」と聞いたことを思つ出した。

答へは忘れたが、説明されてもな

んだか意味がわからなかつた妙な感じは

よく覚えている。さて、と思ひ直して記憶をたどる作業を再開しようとしたが、

余計な寄り道をしたせいかまた思い出せなくなつた。抜群の記憶力が「子沢山」で頓挫とは言ひ難い。

思ひ出すきっかけ

勤務先の病院(*)に着き診察室の椅子に腰を下ろして、これまでどうして句を思ひ出せたのかあらためて考えてみた。

そうだ、絵だ。いのはカルタには絵が描いてある。絵が浮かんでは句を思い出していたのだ。今度は絵を意識して思い出

してみよう。

旅先の客室でい席になつたもの同士が談笑する心ない情景がフト田に浮かんだ。

そうだ、旅は道つれ世は情け」である。

うふ、これだ。仏様の頭の上にカラスがとまつていて、あれはたしか「知らぬが仏」懸念の男の勢いに善良そ

な人がひるんでいる風景は「無理が通れ

ば道理が引つ込む。大きなお原がひから
に向いてる絵は「頭隠して尻隠す」。
なかなかいいね。

屈強な体つきの少年が夜道をひとつと
ぱほほ歩いていの絵「憎まれつ子せに五
びじる」、いややうではない。「せせかぬ」

だ。都へてみると憎まれつ子がはびこ
つてこぬ世が現実に近い。63年間も世
の中を見てこむつむ少年の頭覚えた
句も微妙に変化するのだろうか。立ち上
がつて診察室の手洗いの鏡で自分の顔を
見る。目がだいぶと濁つてこむ。カルタ
遊びをした頃の純心な少年の、キラキラ
輝く澄んだ瞳とはほど遠い。気を取り直
して手を洗つ。水の冷たさに深まり行く
秋が感じられる。窓から見える病院の庭
の樹が紅葉してまことに美しい。とたん
に浮かんだ句が「年寄りの冷や水」。

思い出すきつかけは絵だけはない。句
の口調で思い浮かぶのもある。短い句で
「・・・」といつのがあった。そつだ
「ぬかに釣」。割れ鍋に綴じ蓋もある。

「・・・」は、ところのものあった。そつ
「かわいい子には旅をさせ」。それから
「・・・ねば」とつのもあった。「樂あ
れば苦あつ」。

視聴覚教育

「じつじて思に出してはメモに書きと
めながら記憶を呼び起すと頭はじ
めのように働くのだろうと考えてみた。句
を思いだすきっかけは、始まりの文字の
こともあり、カルタの絵でもあり、句の
口調もあるが、それだけではない。おそ
らくカルタ遊びの場面、句を読む者の声
の調子、とつたカルタに描かれていた絵
句の意味の解釈をめぐつて家族や友達と
ワイワイ交わした議論、それらが一塊と
なつて記憶されていて、その一端を思い
だすと芋づる式にそのときの情景が浮か
び、句が思い出されたのだろう。じつま
で考えたとき、昔よく耳にした視聴覚教
育と「つ」とはを思つ出した。目や耳か
ら入る情報を刺激として物を覚えていく。

そつだ、これである。なんだか近代教育
法の仕組みがわかつたよつた気がした
上解率

一口悪戦苦闘したのが疊せじて早速正
解はこかにてインターネットで調べてみ
た。忘却のかなたにあつた懐かしい句が
大挙して目に飛び込んで来る。「れ」では
じある句は「良薬は口に苦」とわかり、
ああそうだつたと天を仰ぐ。子供の頃れ
う」と書じてなぜ「りょ」と読むのだ
わつじ不思議に思つた」と思つて出した。
わすがにインターネットは情報収集で
いじつじ書いてある。じねばがるたは江
戸時代からあり、江戸、京都、大阪、尾
張など地方によつて異なること、私の覺
えていたのは江戸じねばがるただとつ
ことがわかつた。面料にことじ、私が言
い間違えたように「にくまれつ世じよ
びじる」とこつ地方もある。上方のかる
たである。関西の人のほつが現実的な
だつたが、また私が思い出した「ぬかに

釣は京都かるた 江戸では「盗人の寝」と云ひもわかつた。それから「いふは」の最後は「ふ」で終わると思つていたが、「これは後世の人がくつつけたもので、亮とするのが正しいのだそつだ。そのためか江戸かるたの最後の札は「京の夢 大阪の夢」である。

採点の結果、抜群の記憶力と視聴覚教育の成果を総動員した私の記憶力だめしは正解率26／48と5割をわずかに超えたことだった。記憶力減退といつ現実を突きつけられ苦い思いをしたが、年齢に負けずに口から脳を鍛えよとの警笛と受け止め奮起する気になった。

奥 村 秀 一
ここに書かれたは、開業して14年間、まだまだやつとしする事ができません。好きなジャズをやつくりと聴きたつです。
(眼科)

まやこへ「おはせ口に苦」である。

(*) 東京都職員共済組合青山山病院
2008年3月31日開院

野生の「キノコ」

浜 名 新

私は、大館一夫氏主催の「キノコ入門講座」を何回か受講し、野生の「キノコ」に興味をもつてなった。何回かハイールドワークに参加したが、いつしか年1回の富士山4合目にある奥庭莊に1泊2日間の「奥庭莊の教室・観察会」が定例となつた。富士山5合目は標高2540メートルくらいで、御中道の上方が森林限界である。富士山の植物の垂直分布によると、低山帯に「こなみ ぶな」かえで類、さざ類、杉、ひのき、ひらじもみ、人、シ、林、亜高山帯に「だけかんば、からまつ、しらびれ」があつが、「わらじ」

たで、みやまおとしよむぎ、などがみられる。豊かな針葉樹や広葉樹はキノコとの共生関係にある。

私が野生のキノコに大いに興味を覚えたのは、大分以前、近くの公園の「柳の切り株」に出現したキシメジ科の「ヒノキタケ」を見つけ、ひそかに水をやると日に日に成長し、全体で大きな皿のようになり、ぼちぼち採取しようと狙つてみると、誰かが足で蹴散らしてしまった。すこし無念で、何とか食べられるものをいくつか「拾つたとき」である。翌年にしっかりとゲットした。公園を仔細に観察し春から夏に「アミガサタケ」「マンネンタケ」を見つけて。

今年9月、富士山の「キノコ観察会」の往路、バスがスバルラインに入るところと風が強くなつた。5合目手前の「御庭」バス停で下車。登山用の「ロードの杖」を使い、でこぼこした舗装道路を奥庭莊まで下つた。

講師の先生方に「挨拶。皆さんお元気

るもみ、高山帶に「け、地衣類、おん

の様子。山莊の店頭に「ショウウゲンジ」「マツタケ」が売り出されて、農作な
かと期待が膨らむ。「香りマツタケ、味シ
メジ」この観察会で「松茸」を探つた
ひとは何人もいない。だれしも今年こそ
と胸に秘めて参加しているにちがいない。
受付で「入山観察札」を戴く。今年は
値上がりし一日用で2000円。参加者
は38名で、常連と初参加の若い人たち
も多い。採取「ースは山小屋より上方の
「お庭」「ース」と下方の「原生林」「
ース。初日は風とガスが強く全員原生林
コースへ。翌日は「御庭」「ース」。役員諸
氏は迷子にならないよう点呼を繰り返し
細心の注意を払つ、「はぐれたら動かない
で下さ」と。会場で「キノ」「田」で
キノコの「傘・柄の上部のくもの巣状の
「つば」・柄の下部の「つば」までを
きちつと採取する。林床は「ケでふかふ
かし心地よいが隠れたハがあり油断なら
ない。

初日の観察会は風雨のため山莊内で

翌日は快晴で森の中で、観察用の模造紙
を広げ検索手順に分類して「名札」を並
べる。子のう菌の仲間の「チャワントケ
類」、担子菌の仲間の「異形担子菌」の「キク
ラゲ類」と、真正担子菌の「腹菌類」
と、派生の幅菌亞綱には「ヒダナシタケ
目(硬質 マンネンタケ科)、軟質(アン
ズタケ・カノシタ・ホウキタケ)とハラ
タケ目の科には多くのキノコが含まれる。
イグチ型(子実層托が管孔)、ベニタケ型
(柄が縦に裂けない(乳液の有無)、子実
層托がヒダで柄が縦に裂ける仲間は多い)。
ヒラタケ型(柄が側生・偏心性)、ヒダが
厚く蠶質のもの(ヌメリガサ科・キシメ
ジ科)、ウラベニガサ型(傘と柄が離れや
すくツボとツバのある)テングタケ科、
カヤタケ型(ヒダが垂生)のオウギタケ
科・キシメジ科、クモの巣状のツバがあ
るフウセンタケ科、クヌギタケ型のキシ
メジ科・イッポンシメジ科・フウセンタ
ケ科・ヒトヨタケ科など。自信ある人は
採つたキノコの名前を書いていく。

私はタヌキノチヤブクロ、カノシタ、
アンズタケ、ケロウジ、アミハナイグイ
チ、ヤマイグチ、ハナイグチ、オオツガ
タケ、マムシフウセンタケ、キシメジ、
ドクツルタケなど、田舎でのショーテン
ジ・マツタケはゼロ。観察会に毒のドク
ツルタケ、ベニテングタケ以外に美味し
そつなカキシメジが一本。

夕餉のあと「キノ」「勉強会」で講師は
デモ用のキノコを選び、分類に従つて解
説された。解説を聞くとその場では分か
つたように錯覚する。だが、独りになる
と急に自信消失、お手上げとなる。講師
は強調する「キノコは人様にあげないで
戴きたい。大丈夫と判断しても突然変異
で毒になるかもしれません」持ち帰つたキノ
コを翌日選別・洗い日本酒で焼き料理の
「だし」に用いていく。

中 村 雄 彦

散歩

趣味とはいえないが、散歩はよくする。中学の頃数学や物理の面白い問題を一つ一つ解くと、家の周りを「ラララ」歩いてくる。近所の人が母に「お宅の坊ちゃんは浪人中ですか」とよく尋ねた。警官の不審問にあつたことがある。用事もないのだから、ただ歩く。今のやうになつては、何處へ行く乗せてやる」と余計

連れていく」「スケッチをして」と、など色々いわれた。戸外のスケッチは眼を傷めるやうなべきでない。わざわざ車を止めて「何處へ行く乗せてやる」と余計なことをこつものもいた。今も「もつと早く歩け、運動にならない」「手を大きくなれ」などとつるやくいう奴が絶えない。「不動産探しですか」とつも今までいた。金にならないと動かない。意味がない」とはしない。貧しい思想である。

私の父は東京麻布の地主の長男で、東大経済学部を卒業し、旧制新潟高校をでた縁で私の母方の祖父が副頭取だった新潟市に本店のある第四銀行に入行、日本橋の東京支店に勤めていた。東京麻布にいた小学校の戦時中、今も時々テレビで見る近くの麻布の善福寺に集められて上級生の後について麻布区立南山小学校に登校する。今まで好き放題に近所の○君と

卒園した仙台坂の上の安藤幼稚園を通り、わざと遠回りをしてオーストリア大使館のある暗闇坂を降りて登校している。以前は「ただ歩くのではなく大を連れていけ」「スケッチをして」と、など色々いわれた。戸外のスケッチは眼を傷めるやうなべきでない。わざわざ車を止めて「何處へ行く乗せてやる」と余計なことをこつものもいた。今も「もつと早く歩け、運動にならない」「手を大きくなれ」などとつるやくいう奴が絶えない。「不動産探しですか」とつも今までいた。金にならないと動かない。意味がない」とはしない。貧しい思想である。

戦争の時は空襲の時に、江に避難する人が盛んである「赤い手袋」といって、集まつて歩く。戦時中の集団避難と同じだ。最近はやたらに健康と称して、歩くのが盛んである「赤い手袋」といって、集まつて歩く。戦時中の集団避難と同じだ。いつ配慮だつたが、空襲の防空壕を集中的に爆撃されて「大熱」くなつたといつ記録もある。集団で寄つてたかるのはよし

あしである。

最近人々がやたらに歩きだしたのは、「メタボ改善のため」と医者の言つことを真に受けた結果でもある。一貫的行政の得意など。戦時中でもこうい

い夫の心援のむと、声楽を専門に学んでおります。年に一度素晴らしいホールで演奏できる機会をとても楽しみにしておつます。よろしくお願いします。
(家族)

鈴木 美根子

今治市で耳鼻科を開業していくまでも、夫の心援のむと、声楽を専門に学んでおります。年に一度素晴らしいホールで演奏できる機会をとても楽しみにしておつます。よろしくお願いします。
(家族)

らあつた。平和なやることのない今、何とか仕事を作るつじてこの両面の苦労の結果である。

私はただ歩くだけで60年たつ。特に健康法をすることなく古稀を通り越した。別に健康に異常はない。これまで大病の経験もない。現在も今までどおり論文作成、学術講演をこなし連日多数の患者を診ている。東京や大阪をはじめ遠隔地からの来診者もある。人はとうてあれ自分がよければよい。人様には自分のやつていることはお勧めしない。各自、自分の好きに続けることである。

最近は車で行くドライブ散歩もす。

自宅から30分ほど車に乗り1時間近く家内の買つてくれた熊よけの鎧を腰につけて山の中を歩く。私は20歳台で免許をとり内は大学生の時とつたが、勉強の邪魔と50歳まで車は持たなかつた。50歳でマイカーに乗りだした頃、何時免許を取つたのですか?「奥さんは偉い、一発で免許を取つた」といつものままでいた。



椿山荘にて（昭和48年ごろ）

必要に迫られなければやれない、俗人の常である。

「これまで時間をかけて通勤通学はしたことがない。高校からは重役になつた父の勤務で新潟市に暮らしたが、もともと

出ないで「一旦過」せぬ。自宅には50坪ほどの屋上がある。退屈すると歩く。勿論邪魔な植木などない。もっぱら歩くだけのために造つた。自宅開業を最近嫌つて住居だけ別にする人がいるが、その利点は限りなくある。まず必要な文献は直ぐに手に入る。家即書庫。お陰でこれまで世界初、本邦初が10篇近くあるドイツ語英語をはじめとする60篇を超える学術論文作成と70回を超える学会発表をすべて開業してから行つてきた。

昭和60年には学術的著しい業績で「日本医師会最高優功賞」を受賞した。昨年朝日文庫からでた日本人脈記第4巻の医師編で「日本の60名の名医」の中に脳外科、心臓外科の医師たちと並んで全国で只一人の皮膚科医として記載されてくる。朝から気兼ねなくバイオリンも弾ける。すべて自宅開業のお陰である。

開業は自宅をかねた医院。一步も外へ出ないで「一旦過」せぬ。自宅には50坪ほどの屋上がある。退屈すると歩く。勿論

私はドイツ語を高校の時、ドイツ人について習つたが、フランス語とイタリア語は全くの独語で、50年ほど続けていた。以前、ジオの女性フランス語教師が「フランス語上達の秘訣は止めなさい」といふ。いつだが、私は止めないわりには上手くない。しかしヨーロッパでは日常会話は不自由しない。

ヨーロッパへ大学に留学し、最近でもヨーロッパに年1、2回行く。ヨーロッパではクラシックコンサートと美術館めぐりが主。小学校から現在も続いているク

萩野仁志

はなのはのひとし

父の萩野昭二がお世話をなつて来ましたが、父が築いて来た伝統に新しい風を吹き込む事ができた幸いです。じつやよろしくお願ひします。クラシックとジャズピアノを演奏します。（耳鼻咽喉科）

ラシック音楽のコンサートかよこはヨーロッパでも同じ。最近の新潟県医師会報に「ヨーロッパ・クラシックコンサート50回」という小文を書いた。3年前、チヨーリッヒ大学のブルク教授の招待で1ヶ月近く滞在したスイスでは、ルシヨルン音楽祭、チユーリッヒ歌劇場など11回コンサートに出席した。美術館もヨーロッパの主なところは殆ど行ってくる。散歩は日常のもので、学習とは全く別だが、何となく60年も続いている。今後もこのままこころのままいく。

陸続きの国境

実は愛知県と岐阜県の県境にも二国といつ山がある。昔の国名では三河と尾張と美濃の二国が境だったが、現在は三河と尾張が愛知県になっているので、地図の上では愛知と岐阜の二県の県境である。同様に大阪府と和歌山県の境にも二国山がある。昔の国名では河内と和泉と紀伊の二国の境だったが、河内と和泉が大阪府になつたので、地図の上では一府県の境になつていて、一県の境界にあ

全國各地に二国山や二国岳といつ山がある。群馬県の上野村の南端にも三國山といつ山がある。群馬と埼玉と長野の三つの県が接してくる地帯である。その他にも山県、鳥取、島根の二県

るに二国と呼ばれる理田は、歴史的な考察から直ちに理解できる。

上述の場所以外にも、二県の県境が接する地点に聳える山がいくつもあるが、三國山や二国岳と呼ばれる山は見当らない。例えば、群馬、栃木、福島の県境には黒御山と呼ぶ山があり、群馬、栃木、福島の県境には黒御山と呼ぶ山があり、群馬、栃木、福島の県境には黒御山と呼ぶ山があり、群馬、栃木、福島の県境には黒御山と呼ぶ山がある。

余談だが、群馬県の田新治村を通りて新潟県の湯沢温泉へ向かう国道17号にある二国峠が群馬と新潟の県境である。

二県の境界線上にあるが、何故か二国と呼び、地図上の所在地と名前が一致していない。地図をよく見ると、二国峠の少し西にある印砂山が群馬、新潟、長野の三県の県境に位置している。因みに田の字の中心部のよつて、四つの県境が接している地図は存在しない。

数年前に日本協会といつ団体が企画したドイツ研修旅行に参加したことがある。

旅程の中にドイツ、ベルギー、オランダの二ヶ国の国境が接する地点を訪れるバス旅行があった。ベルギー国境に近いドイツのAACHTEN(アーヘン)という町の郊外にあり、標高300メートルの高い丘陵地帯であり、観光バスで乗客と到達できる。税関もなく、パスポートの検査もない。「ここが二ヶ国の国境」と書かれてある碑が建つておらず、二ヶ国の国旗が掲げてある。観光バスがあたりと並び、大勢の観光客で賑わっている丘の上の森林公園で、物々しい国境と二つ霧雨氣は全く感じられない。世界地図を広げるとドイツ、ポーランド、チェコや、フランス、イタリア、スイスや、ロシア、フィンランド、ノルウェーなど、二ヶ国の国境が一点で接する場所が何ヶ所も存在する。

余談だが、世界でただ一ヶ所、四つの国境が一点に接している場所がある。アフリカ大陸の南部で、世界の三大瀑布と呼ばれるビクトリアの滝の近くでジンバ

ブエ、ボツワナ、ナミビア、ザンビアの四ヶ国の国境が一点に集中している。周辺を海で囲まれている国で暮らしている私ども日本人には、陸続きの国境といつ意識や概念は、全く無縁の存在である。

田制高校の自由と反抗

小川再治

私は戦時中、リベラルな田制高校で、幼稚な自由主義を土台にした、反戦反重思想を持っていた。京都の三高は成城よりもリベラルだったらしい。私なり若干年長の梅木薰といつ方の「平安三里に」という三高生活回想の本を最近読んだが、三高は成城以上に戦争と陸軍を嫌っていたことを知った。私はじ過激な生徒は少なかつた様だが、厭戦・厭軍の力ラーがあつたらしく。

三高で軍事教練が行われた日、配属将校が陸軍で行つよつた戦意高揚の演説

をぶつっていた時、反軍派のAがそっぽを向いていた。配属将校は激昂し「前へ出る」と叫んだ。Aがののると前に出た時、配属将校はAを裸にして軍刀で殴り倒した。殴打はAが死んだ様に動かなくなつても、止まなかつた。

その時、Aとは交際はないが、やはり軍人嫌いの激情家Bが飛び出して来て、「馬鹿野郎」と怒鳴つて将校を小銃で殴り飛ばしてしまつた。全生徒は凍りつい

た様になつたが、将校に対する怒りと反感が充满していたとか。その後はどんどんAが署名した「Bを放校しないで下さい」との嘆願書が学校に提出された。しかしBは放校になり、京都から消え去つた。私はAとBに深い同情を覚えた。若しBが存命していたら是非会いたい。また、Aが殴打で落命しなかつたことを祈つて下さる。

若しこの時、私が二高生だつたひがつ

でしたらうか。クールで臆病な私だが、矢張り肝を据えて将校の所に直行しただる。そして彼の前に下下座して、「これ以上殴つたらAは死んでしまいます。許してやつて下さい」と叫んだと思つ。将校も「こいつが死んだら面倒だ」ぐらいの事は思つていていた筈だ。私の嘆願を渡りに舟と思い、「以後気をつけろ」と叫ぶくらいで許してくれたのではないだろうか。

佛頭

池田壽雄

①

大阪府泉北郡忠岡町に正木美術館があ

ります。この美術館正木孝之氏によつて創立された財團法人の美術館です。所蔵品は500年前に描かれたり書かれたりした山水画300点を中心にして、1300

作られます。想像を絶するよつた長時間

をかけて人工的に洞窟を掘り、その中心に仏像を祀るのであります。現場の石を刻んで仏像を作るわけですから、他所から運び切り落とし、そこから丸1日かけて馬で北京まで運びだし、それが数人の業者を通じて日本へ運ばれ、正木氏の所蔵となつたもののです。

この話は、正木氏ご本人から直接私が

聞いたものですから、信頼性は高いと信じています。石窟は、岩盤を切り開いて

ですから、正木美術館の佛頭は穏やかな表情をしておられ、なかなかいいもの

です。何番目の石窟であるかは明らかになつてゐます。戦争が終わつた現

在では、中国政府から返還を請求されるかも知れないが、と正木氏は語っています。

した。

〔2〕

佛頭を彫刻するのを趣味としていた方がいました。この方をAさんと呼ぶことにしました。Aさんは決してプロではなくて、口職口などを利用して石材店から入手した石に彫刻するのです。慣れてきたので、彫るスピードが早くなつてわずか1日で1個の佛頭を彫るまでに腕が上達していただのです。

彫り上げた佛頭は、決して皿や土積み上げたりしないで、希望者にはじんじん差し上げてつまづレジメントといました。

Aさんは驚いたのは言つまでもあります。庭に自分の作品を置きっぱなしにした経験がなかつたからです。Aさんによれば、佛頭どころものは特別なものなので、『大きこ』扱いされて、捨てられる危険がないといつことです。作者にとっては、自分の作品が捨てられるくらいに残念なことはないのです。

〔3〕

私自身が57歳の時です。暮れの12月でした。私は1938年生まれですから、1995年だつたと思います。

私は泉北ゴルフ場といつ打球場に練習に行きました。偶然、隣の打席にてさん

つけました。昔が石にはじびつとしてて、いい表情をしていました。

「いい佛頭ですね。どこから手に入れたのですか?」

Aさんは知人に質問しました。

「え? 4年前に和からこだいたもの

じゃないか」

Aさんは私に話しかけてきました。

「佛頭を彫つてみたい気になつましたね、その準備ができたので、明日から木彫りで佛頭を彫るつもりであります」

「さんのそれに対する返事は、意外なものでした。

「人間がそういう気分になるのは、死が近いときだ」と言われてますよ」

私はその返事に驚いて、計画を中止したのは言つまでもありません。私は凝り性の性格なので、それまでに佛頭を彫刻するために入念に準備しておひました。

大阪市梅田の大きな『紀伊國屋書店』で3冊の専門書を求めていました。2万円が3万円せしたと思ひます。

堺市の刃物の専門店『一貫子忠綱』で

がいました。Tさんは和泉市の聖神社の神主さんでした。かつて和泉ロータリークラブの会員だったTさんに私はTさんと知り合つたのです。

「いやあ、久しぶりですね。じつにまですか?」

25000円する彫刻セットも買つていました。この店の奥様は私の妻の中学時代からの親友だったのです。刃の形がいろいろな刃物が、5点入つていました。

知り合いの建築会社『玄網建設』の社長に話したら、桜をよく乾燥させた木材を7点も頂戴していました。

さて、モテルが必要と考へて診療所の近くにあつた古美術店の『愛玉手写林』で本物の佛頭も入手していました。元値は15万円でしたが、店の主人が7万円に負けてくれていました。

でも、後でTさんの忠告は真実だったことが判明したのです。

④

持つべきものは『友人』です。

私の妻は大阪に来てから茶道を習い始めました。最初の師は表千家、次に武者小路千家、最後に裏千家を習いました。裏の先生は、大阪市帝塚山に住んでおり

れ、お弟子さんも、会社社長夫人などりツチな人がたくさんいました。そのうちにお茶を通じてたくさんの方人が妻にはできました。特に仲のよい友人とは夫婦そろって交際するようになりました。

そつして1年に1回程度、1泊2日で

旅行も夫婦そろってするようになりました。度は亭主のほうが車で行くようになつたのです。福井県の金沢市、和歌山県の串本市に行つたことなど印象的です。和泉市では秋祭りの地車祭りが盛大に行われます。そのときには擂籠で招待したものでした。

『佛頭』事件の3ヵ月後、つまり1996年3月上旬の日曜日の夜、私は友人のH氏から皿毛への招待を受けました。

彼は店舗改装一事を手伝くやつていて、

年商10億円ほどの会社を経営する工務店の社長でした。皿毛は大阪市千日前にあり、5階建てであり、その5階に和室の応接間があり、中央には圍炉裏が切つてあって、『牡丹鍋』を駆走してくれま

した。招待客は私を含めて8人程度だったと記憶しています。牡丹鍋とはイノシシの肉を、圍炉裏の中央に吊るした鉄鍋で煮ていただくのです。千日前は大阪市のミナミの中心街であり、『黒門市場』がすぐ近くにあります。

やがて肉が煮えると、井に野菜と一緒にたくさん肉をよそつてくれました。そして、『山椒入り胡椒』の小さなビンが出されました。私は耳かき1杯位の少量を井にかけて食べよつとしました。そのときには、Hさんが、大声を出しました。『いかん、いかん、胡椒はこれ位入れないと』

言つたかと思つと、たちまち5杯も胡椒を入れてくれました。それが日曜日。

その週の水曜日でしたから、牡丹鍋の駆走から3日たつっていました。午前6時ころ、私は排便して吃驚しました。トイレの水が真つ赤に染まつていたからです。まるで赤インキの壇を全部撒いたか

のよつた鮮紅色でした。その日は午前中は仕事（内科の外来）をして、午後から鳳胃腸病院を受診しました。内視鏡の検査の結果、肛門から7cmの場所の直腸に直径約2cmの腫瘍があるのが発見され、組織の病理学的診断では『直腸がん』といわれたのです。さういへ、どこにも転移のない早期がんの状態で発見されました。

おなじく『山椒入りの胡椒』の刺激が強くて、粘膜がんから出血したのでしょうか。その2週間後で、病院に入院して切除術を受けました。約1ヶ月間の入院の後、退院しましたが、術後経過は極めて順調であり、13年後の現在も元気に暮らしています。

持つべきものは『友』です。Hさんからの招待がなければ、私は今頃には直腸がんのために黄泉の国へ行っていたに違ないかもしれません。

それにしても、神社の神主のT氏の予言の正確さには恐れ入りました。

います。

この仏像は、頭部と胴体とが別々に彫られた仏様だと推定されます。それは頭部より下方が円柱形になつてゐるから、胴体の中にはめ込まれる構造になつてゐるから判ります。

ところで、お寺の本堂にある仏像は、祈りの対象です。下の方から見上げられながら鑑賞されます。ですから、仏師ももちろんそれを想定の上で彫刻したことでしょう。

美術館で鑑賞される仏様とは異なるのです。

これは正面からやや見上げた場合の姿です。優しい日の温顔です。祈る人を憐れむよつた慈悲を感じさせます。目は瞑つていなくして、所謂半眼の状態です。

カメラの位置を少しずつ上方へ移動していくのが理解できると思います。見上げる場合にはいかにも仏様が偉そうに威張つてしまつた感じですが、いかにも



5

佛頭について、その鑑賞法について考
えましょう。私が古美術店の『麦子古林』
で求めた佛頭（写真）で説明したいと思
います。

目線が上方へ移動していくと、その威圧感がつづれしていくのが分かります。話は変わりますが、野良猫の世界では、体の位置が少しでも高い方が偉いのだそうです。猫同士で喧嘩して、Aが勝ちBが負けた場合には、次にあつた場合は必ずAが高い位置を占めます。

野良猫が塀の上にいるのを発見する

ことがあると思いますが、下の地面に他の猫がいる場合には、この常識を思い出して眺めたら楽しいと思います。

私たち人間の世界でも、学校では『教

壇』がって、先生はその上から講義をしています。お寺に行くと僧侶は一段と高い席から講話をします。これにはちゃんと理由があって、動物の原始本能が人間に残っているのです。

戦後、同じ田線で、田の高さで、平等を間違つて教えていました。戦前の姿が、教師と生徒との関係には正しいのです。

仏像は単なるモノではありません。そういう風に考えた人は、昔風な表現をするなら、『バチが当たります』。これは、日本人特有の表現で、英訳が極めて難しいとされています。

仏様に向かって、私たちは祈りを捧げます。西洋人は、パートタイマーのような

介により、写真部に入会させていたきました。未熟者ですので、よろしくご指導くださいますよ。

（胃腸科）

日本人は起きている間は、つまり曜日とは一切関係なしに、いつも仏様のことを考えながら、『バチが当たりない』行動をしています。

日本人は起きている間は、つまり曜日とは一切関係なしに、いつも仏様のことを考えながら、『バチが当たりない』行動をしています。

祈るときには仏様に決して要求してはならない」とされています。ただ、今田一日が無事で過ごせることを有難い、と感謝を捧げるのです。そつすれば、私たちの心に平安が訪れます。

どの世でも、人々は大変な時代に生きていたことでしょう。安樂な日々は少なく、苦難と苦労に満ちた毎日だったでしょう。先祖がそれを生き延びてくれたからこそ、わが身体と心がここにあるのです。有難いことです。

次号は「文芸特集号」です。12月中旬に発行予定。内容案内は43頁に。冬季号は1月下旬発行になります。投稿規程は39頁をご覧ください。